

ヘッドライン

「水性工芸うるし」開発
ファン拡大に期待、うるし感を楽しむ
和信ペイント

和信ペイントは来年3月に「水性工芸うるし」を発売する。漆調塗料の水溶性(ウレタン)タイプは業界初。油性タイプの課題であった乾燥性や作業性、臭いの低減を図ったことで、新たな需要層の拡大に期待している。

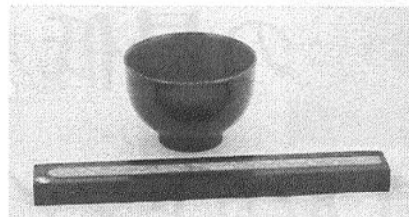
DIYマーケットにおいて漆塗料は、工芸品製作を趣味とする年配層のユーザーを中心に根強いファンを抱えている品目の1つ。中でも教材利用については、木工製作の仕上げに使いたいというニーズがあるものの、従来の油性タイプでは臭いや乾燥時間の長さから授業時間内での使用が困難となっていた。

今回開発した「水性工芸うるし」は、水性ウレタンエマルジョン樹脂塗料をベースに漆の色合いや仕上がり感にこだわった。また臭いがなく、乾燥

性(塗り重ね4時間)を高めた点が特長で、更に食品衛生法にも適合させたことで、額縁やふすま縁の他、箸や食器にも安心して使うことができる。

カラーバリエーションは、黒、透明、鎌倉赤といった本漆色の他、藍色や黄色など全8色をラインアップ。本漆同様、落ち着いた艶のある仕上がりが見られ、「これまで職人だけの世界だった漆色仕上げが容易に安全にできるようになった他、色同士を混ぜることも可能なため、色のデコレーションも楽しむこともできる」(担当者)と説明。

容量はポリ容器200ml入りで、3回塗りの場合、1瓶で約0.8㎡を塗布することが可能。価格は油性タイプと同等になる見込み。発売は来年3月を予定しており、まずは教材用途への提案を積極化していく意向を示す。



同社はこの数年、主力のニス製品や水性木材保護塗料の拡販のため、ホームセンターでの店頭デモを積極化している。シーズン時には、営業マンのみならず、技術や事務員も参加する総出の状態となるが「お客さんと直に接することで、肌身でお客様の好みを感ずることができる」と深澤筑紫社長は話す。このことが結果的に部門間での意識の差を取り除き、製品開発のスピードを高めることに寄与している。

来年1月からは生産と技術を統合した生産技術部を設立。「当社の規模であれば専門性を高める以上に、1人1人の総合的なレベルを上げていくことが重要」(同)と、営業部、管理部を加え組織体制をスリムにする。